

認知症ケア講師養成の極意

リレー連載

～きらめき介護塾の取り組み～



(社)きらめき認知症トレーナー協会 代表理事 渡辺哲弘

滋賀県内の障害者施設・高齢者施設などの介護現場を経て、認知症ケアの研修講師として「株式会社きらめき介護塾」を設立。専門職および地域住民向けの講演会回数は日本・ハワイで年間300回ほど。認知症の基本わかりやすく伝えられる専門職を要請。

第2回 トレーナー(シスター)養成講座

星の数ほどある認知症の研修のほとんどが、自らが「学ぶ」為の研修です。その中で今、専門職として何が足りないのかを考え、誕生したのが「伝えられるようになる」為の研修、【きらめき認知症トレーナー(シスター)養成講座】です。

○なぜ新米のお母さんは絵本が読めるのか。

幼稚園の先生が絵本を読み、その傍らには先生の語りを聞く子ども達の姿。でも先生みたいに専門教育を受けていない新米のお母さんでも子どもに絵本が読めるのです。それはどうか、絵本に文字(台本)が書いてあるからなのです。認知症の話も同じ。完成したスライドがあり、それを伝えるときに必要な台本

もある。あとその内容を理解し、「伝わる」為に必要な表現方法を身につける。

だから誰だって明日から伝えられる人になれる、それが業界初の「『伝わる』伝え方を身につける【認知症トレーナー(シスター)養成講座】」です。○知識を学んだからといって、必ずしも伝えられるようになるわけではない。白紙の紙とペンを渡され、「この紙に綺麗な円を

業界初「明日から伝える人になれる研修」

描いてください」と言われたら、あなたは描けますか？ほとんどの人は首をかしげると思います。皆さんは「綺麗な円」「ゆがみの無い丸」だと言うことは知っているのです。大事なことは「知っている」から「出来る」わけではないのです。

○介護職としてのスキルアップに

介護業界でも多くの人が「いつか地域で伝えられるようになりたい」と思って学びを深めています。誰しもが伝えられるようになるとは限らないのです。しかし台本というツールを使うことであなたも明日から伝えられるようになります。伝えることを通して知識を学ぶことに繋がります。この逆転の発想こそが【きらめき認知症トレーナー(シスター)養成講座】なので

地域のサロンなどで認知症の話をする時、色々な質問や相談を受けます。それらに答えられなかったらどうしようかと不安が先立つ人も多くなります。認知症介護指導者の資格を持っている私自身でも、いまだに答えられないこともあります。要するに、すべての質問に答えられるように知識をつけ

ようと思ったら、いつまでも人前では話せないのです。大事なことは、質問をされて答えられなかった時、必ず後からインターネットや書物で調べるわけで、必要性を感じて自分で調べたことは2度と忘れない知識になるということ、これがそが資格試験の為に勉強して得る知識(試験が終わって忘れることが多い知識)とはまったく異なる、いわば本当の学びであり自分自身のスキルアップに繋がるのではないのでしょうか。伝えることは学ぶこと、介護職としてスキルアップできる、これが【きらめき認知症トレーナー(シスター)養成講座】なのです。